

綿づくり

セルロイドハウス横浜館では、毎年 5 月中旬に綿の種を蒔くことが恒例になっています。それはセルロイドの主たる原料が「硝化綿」ですので、セルロイドミュージアムの一環として「綿づくり」も必要と考えたからです。

今では綿の種が発芽し注水・堆肥・防虫などに気をつかいながら葉茎が成長して蕾がつく頃になると「今年も良い綿が出来る」と安心します。



当初は、狛江市の植木屋さんや千葉県の農園からいただいた種を蒔きました。ですが思った程の綿が出来ませんでした。

5 年ほど前に財団法人・日本綿業振興会の東京営業所長様から「綿の種子」をいただきました。それが大変良い種子でした。それ以後、当館も本格的な綿づくりが出来るようになった次第です。



セルロイド産業文化研究会の一行が大阪市中心区備後町の綿業会館（財団法人・日本紡績協会）を訪れて館内見学のあと会食をしました。そのビルの 4 階に日本綿業振興会の本部がありました。

昨年 5 月 9 日、日本紡績協会主催の第 18 回「コットンの日・2013」のイベントが東京恵比寿のホテルにて行われました。セルロイドハウス横浜館も出席しました。

イベント終了後、「綿の種」が 13 粒入った小さな紙袋（右写真）を 10 袋ばかり頂戴して帰り、関係者の皆さんと分けました。紙袋の裏面に綿づくりの日程、育て方、ワンポイントアドバイスが印刷してあって誰でも『綿づくり』ができるようになっています。



本年も第 19 回「コットンの日・2014」の案内状をいただきましたので、早速

出席の返事を出しました。

横浜館の綿づくりは、日本綿業振興会発行の『はじめての綿づくり』と『もめんのおいたち』の2冊を手引きにしています。

日本綿業振興会の「綿の種」は、アメリカで実際に商業栽培している実用品種・アップランド綿（Upland Cotton）です。現在では世界の綿花生産の90%がアップランド綿、といわれています。

横浜館の綿づくりは、歩道に面した花壇と屋上で行っていますので通行人も珍しいがって足を止めます。

プランターに土壌を入れ「綿の種」を蒔いてから一週間も経つと芽が出てきます。それから一月半過ぎると、蕾が付き、やがて花が咲きます。



綿の木の芯を摘む



花の色がピンクから白に変わる



蒴果（コットンボールが裂ける）



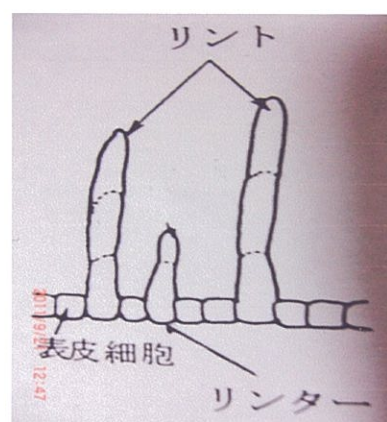
成熟した綿が溢れる

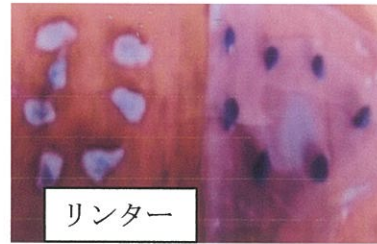
説明書に、

「開花後45日～65日目にコットンボールの皮が乾燥して反転し綿の繊維素が顔をのぞかせる。内から成熟した綿があふれて出てくる。

綿の繊維は、種子の表皮細胞が縦に長く生長し、その後横に厚みを増して生長して一本の成熟した繊維（リント）になる。

表皮細胞の縦に短いままの繊維がリントである」と、ありますが実際にその通りになります。





写真左の一個のコットンボールを広げると 4 部屋になっています。4 部屋毎にリントがリンターを包み、さらにリンターが 7 個の黒い種子を包んでいます。

収穫した綿を綿繰り器(ローラージン)に架けます。

(A) 長い綿毛=リント

(B) 種子を包んだ短い地毛 (リンター)



A と B との分離を試みましたが、初めての事で簡単にいきません。その筈です。綿を収穫したあと「綿を 5 日以上天日に干して乾燥させ水分を抜くこと」の大切な事を忘れていたのですから。

綿づくりを始めた年に、開絮した綿のプランター 2 個を屋内に、もう 1 個を屋外に置いたままでした。それらを収穫して綿繰り器に架けたとき、屋外に置いたままの綿は雨に濡れて固まっていたリントとリンターを分離するどころか全くの失敗でした。

失敗は成功のもと、わずかながらも体験をしてリントとリンターをどうにか分離することが出来るようになりました。

また、展示中の綿繰り器 2 台の保管も大切なことです。綿繰り器は、歯車やハンドルも全て木製ですから、乾燥しないよう特に気を配らなければなりません。

◇長い綿毛 (リント) は、紡いで木綿糸、衣類、布団綿、脱脂綿などになりました。

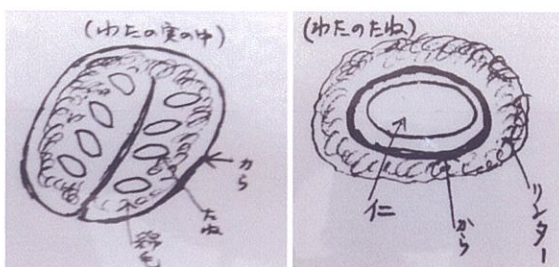
不用になった木綿の衣類がセルロイドの原料(硝化綿)になった時代もありました。

リントを輸入に頼っている現在、リントを現地で刈り取ってから紡績会社に引き取られているようです。

◇種子を包んでいる短い地毛は、製油会社に運ばれ種子とリンターとに分離されます。

油を絞る前に切り取られた短毛のコットンリンターが、透明なセルロイド生地 of 原料（硝化綿）になり、フィルムが作られた時代もありました。

◆リンターの日本メーカーでは、阿波製紙（株）さんが有名です



「綿の種子」の内部にある「仁」には、多量の油が含まれていて絞ると風味豊かな油が得られます。この油は綿実油のサラダ油として、今日現在も売っています。

また綿実油はマヨネーズの原料にもなっています。



{綿実油の販売}

写真の赤ラベルは大阪府の岡本製油（株）が製造元で有名デパートにて、青いラベルは日清製油（株）が製造元で大手スーパーにて売られています。横浜館に現物を展示してあります。（了）

参考写真 3 枚

